



## 地域連携のためのWEBシンポジウムに参加して

地域医療連携課 近藤 智

去る1月19日、視聴者参加型ライブセミナーが開催され、今回は香川労災病院の多田羅先生による「地域の医療機関との連携から見えてきたもの」と題してご講演がありました。

地域医療連携の変遷から、香川労災病院による地域連携バスを通した他の医療機関への訪問・要望対応や香川シームレス研究会の設立から運営など多岐にわたりお話を拝聴しました。「連携」という言葉は、今ではあたり前になってきていますが、「連携」の構築は今も昔も変わらず「訪問」から始まり、その訪問から「顔の見える関係」が構築され、信用を受け、「協働」をもたらすという時間を掛けて培うものであることを再認識するとともに、この「連携」も全ては患者さまが適切な医療を受けるという目的であることを忘れてはいけないと実感しました。

また、平成30年度診療報酬点数改定において、「患者の状態に応じた入退院支援」が評価され、又地域包括ケアシステムの構築を推進するため「在宅医療や介護サービスの提供」など様々な役割・機能を有していることが評価される時代となり、国が描く地域完結型の医療提供においては医療・介護の連携も欠かせないものとなってきました。今後はどのように患者さまの情報を共有し、又お互いに得た患者さまの情報を最大限に生かせるか等、情報の共有と情報シートの統一といったことをこの松江・安来医療圏等においても検討していかなければならぬと感じました。

今後は松江赤十字病院の地域連携だけでなく、地域に貢献できる「連携」を目指し、様々な取組みに挑戦していきたいと思いますので、今後とも「連携」にご協力いただきますようお願いいたします。



## 新任医師紹介



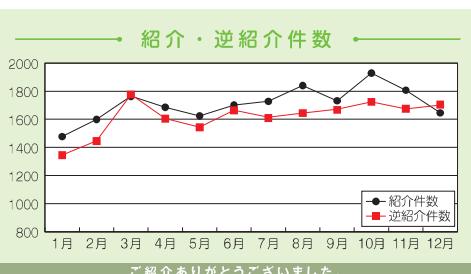
第三麻酔科部長

岸本 朋宗

H30.2.1

### 退職者

- 平成30年1月14日付  
耳鼻咽喉科副部長 小田 直治
- 平成30年1月31日付  
麻酔科医師 延原 圭



松江赤十字病院 地域医療連携課  
〒690-8506 松江市母衣町200番地  
TEL 0852-32-7813 FAX 0852-27-9261



松江赤十字病院 地域医療連携課

日本赤十字社

# れんけいだより



### 年頭のご挨拶

院長 秦 公平

明けましておめでとうございます。年末年始いかがお過ごしだったでしょうか。

常日頃、大変多くのご紹介をいただき、まことにありがとうございます。ご紹介いただいた先生方への報告はきちんとしておりますでしょうか。

さて、当院も公的病院改革2025プランを作るようとの要請を受け、昨年10月に作成いたしましたが、内容は今までの急性期病院の機能を続けていくという方針と共に変わりなく、救命救急センター、災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、臨床研修指定病院、地域周産期母子医療センター等の施設認定はそのまま維持していくことにしております。しかし、こうした認定を十分に機能させるには医師がもっとほしいところであります。どの科も充足しているとは到底言えず、時間外勤務が多くなっており、国の働き方改革に従って超過勤務をなくすなどともできそうにありません。

地域医療構想や地域包括ケアなど、国は更に進めようとするのでしょうか、都会と地方では状況が異なりますし、機能分化や統合などといわれて



も、経営母体の異なる病院間ではそれらは経営に直接影響することでもあり、非常に難しいと思われます。また、在宅での医療を進めるにはそこへ人をつぎ込まざるを得ない訳で、さてこの地域でそれが可能どうか。病院としては経営の点からどうしても診療報酬改定の方に重きを置かざるを得ず、上記のことが果たして実現するのかどうか危ぶんでいるところです。

病院機能の点では、山陰で初めて導入し十数年経ったPET-CTを昨年更新いたしました。新機種は更に性能が良くなっています。当院では年間1300例ほどの新規がん登録を行っており、それらの診断や治療効果の判定に役に立っています。また、思いがけなく3億円の寄付の申し出があり、これをハイブリッド手術室の整備にあてるごとに致しました。今年度末には完成する見込みで、承認されればTAVI（大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁植込み術）も可能になります。その他にも脳梗塞の血栓除去や血管内手術に使用できます。

今後ますます平均在院日数短縮の圧力は強まると思われ、回復期や慢性期病院、施設等が円滑に機能しないと急性期病院の経営も厳しくなってくことになります。更に密な連携が必要になります。今年も何卒宜しくお願い申し上げます。

雲南圏域医療従事者スキルアップセミナー

## 「腹部大動脈瘤の早期発見」の取り組み



検査部長  
高野 智晴



会のガイドラインには「初回診断法としては超音波検査が最も簡便かつ非侵襲的に診断することができる。超音波検査ないしCT検査にてフォローアップし治療方針を決定する」と書かれています。

松江赤十字病院でも2010年より大動脈瘤に対し人工血管置換術に加えカテーテルによるステント治療、EVAR治療が始まりました。今までに162例の症例をこなしています。大動脈瘤は破裂すると一気に救命率が下がることから、大動脈瘤を早期に発見しようということで斎藤先生の呼びかけで松江生協病院、松江記念病院にも加わってもらい2015年7月から心エコーの検査の際に腹部大動脈瘤のスクリーニングを開始しました。手技は短軸走査で横隔膜直下から腸骨分岐まで観察し、3cm以上の場合を報告書に記載し、主治医に報告するというもので、当院でも現在まで紹介も含め100件近く心エコーにて指摘しています。

講演後大谷先生が熱心にステントの挿入方法など、インターネットの情報だけではわかりにくいところを質問されて、斎藤先生も丁寧に動画を使って説明され、先生たちの熱意を感じることができました。

今回雲南病院でもエコー検査にAAAのスクリーニングを取り入れていただくことで、一緒に少しでも患者さんの大切な命を守りたいと思います。だんだん。



安来圏域医療従事者スキルアップセミナー

## みんなの「目」で地域の皮膚を守ろうパートⅡ



皮膚・排泄ケア認定看護師  
石飛 仁美



より興味関心を持って頂くよう工夫しました。

日頃から皮膚に興味をもって意識して見て頂きたいという思いから、この2日間語らせて頂きましたが、「褥瘡・スキンテア」は奥深く、まだ自分自身の中で語り尽くせなかった部分も多く、また機会があれば語りたいと思いました。基本的なことをベースとして自施設の個々の事例を通してのより実践的なセミナー展開もさらに興味を持ってもらえるのではないかなどと考えています。

これから、さらに真冬に向かって、インフルエンザ等感染対策が必須となってまいります。その中でも、「手洗いのあとには保湿ケア」を意識して、まずは自身のスキンケアから、そして患者さん利用者さんのスキンケア、意識して、そして実践してはいかがでしょうか。

